



佐賀市立金立小学校 学校便り 第 34 号

きんりゅう

学校教育目標 「志高く 心豊かに 学ぶ 金立」



令和 6 年 1 1 月 1 1 日発行 文責 校長 副島 和久

第 38 回 金立町 少年の主張大会



学校 HP もご覧ください

11 月 9 日(土)に金立小学校の体育館で、金立町青少年健全育成会の主催により第 38 回 金立町少年の主張大会 が行われました。金立小学校からは5年生2名と6年生2名が出場してくれました。金立中学校からも4名の子どもたちが出場しました。それぞれに自分が好きなことや得意なこと、これまでの経験や自分が体験したことなどを関わりながら、自分の思いや考えをしっかりと伝えることができていました。大人の私たちも「なるほど!」と考えさせられるようなことが多くあり、改めて、子どもたちの素晴らしさに感動しました。

中学生の発表も素晴らしかったです。3年連続出場で本校卒業生の松石寧々さんは、「壁にぶつかったときは」という題で、吹奏楽部で悩んだことやその壁を乗り越えた経験等を話してくれました。山崎結衣さんと山村実愛さんは自分の将来の夢である学芸員の仕事に就くことや小学校の教師になるということを軸に、今の自分の経験等を踏まえて考え、これからのしっかりとしたビジョンを語ってくれました。それぞれに心に残る言葉があり、感動しました。

小学生では、田中 仁菜 さんが最優秀賞、永渕 心晴 さんが優秀賞、そして、久原 康正 さんと森 結望さんが優良賞ということで、11 月 17 日のふれあい文化祭では、6年の田中さんと5年の永渕さんが代表で発表をすることになりました。



出場してくれた小学生 4 名についての講評の中から、少しだけ紹介します。

発表順	氏名	副島校長先生の当日の講評の中から(一部)
1	久原 康正さん	自分が好きな戦艦のことと長崎での自らの体験などを関わりながら、「平和」ということについて自分の思いをしっかりと伝えてくれる発表でした。家族との関わりも垣間見られ、温かいなあと感じました。自らの葛藤もしっかりと受け止めた中で、「不安になったら、自分で考えたり話し合ったり勉強したりすればよい」という言葉がとても心に響きました。
2	永渕 心晴さん	「将来、絵をかく仕事がしたい」という思いの中で、今、話題のAI(人工知能)とどのようにつきあっていけばよいのかということについての考えをしっかりと伝えてくれました。「これからの未来は楽しみだけど不安」という本音とそれでもAIにはない「感情」を大切にしていって、AIと上手に付き合い、上手に使いこなせるようになりたいという思いに共感しました。
3	森 結望さん	「友達と一緒に成長できる存在」「友達は自分を認めてくれる存在」という結望さんの思いを、日頃の学校生活の授業での場面や頑張っている新体操での経験、誕生日に友達からもらったプレゼントなどに関わりながら、しっかりと伝えてくれました。結望さんの「友達は大切」という気持ちがしっかりと伝わってくる内容だったと思います。
4	田中 仁菜さん	学校のリーダーである 6 年生になったことを契機に、「自分の引っ込み思案な性格を何とかしたい」という思いから、運動会の応援団長となり、頑張った経験をしっかりと話してくれました。運動会を一つの成長のチャンスとして、この経験が仁菜さんを大きく成長させたことがよく分かる内容でした。「自分を信じて挑戦する」ことの大切さが分かりました。

11.6 全校朝会の話 「校歌」ってどんな歌なの？

11月6日(水)の全校朝会では、「校歌」についてのお話をしました。以下、子どもたちに話したことの要旨です。

「校歌」ってちょっと変わった歌ですね。それぞれの学校に校歌があって、その歌を歌うのは、その学校の子どもたちや先生、その学校を卒業した人やその学校に関係のある人たちだけです。隣の学校には隣の学校の校歌があって、「金立小学校の校歌」を歌うことはありません。つまり、「金立小学校の校歌」は私たちが気持ちを込めて、一生懸命 歌い継いでいかないといけない歌なのです。

(副島校長が考える) 金立小学校の校歌のよいところは3点あります。1点目は「歌詞の内容が子どもたちにも分かりやすい」ということ、2点目は「小学生が元気よく歌うことができる仕掛けが施されている」ということ、3点目は「音楽の対比が美しい」ということです。(詳しくは、学校ホームページの「金立小の子どもたちへ」をご覧ください。)

私たちの「金立小学校校歌」です。いつも元気に、心を込めて大切に歌えるといいですね。



校長先生が考える

「金立小学校の校歌」のよさは？

1. 歌詞の内容が子どもたちにも分かりやすい。
2. 小学生が元気よく歌うことができる。
3. 音楽の対比が美しい。



金立小学校のいい話 その2

各町区で回覧されている学校便りですが、毎回、町区ごとの部数を数えて、帯を付け、金立公民館のボックスに入れさせてもらっています。この18町区ごとに枚数を数えて、帯を付ける作業は、何と金立小学校の3年生の子どもたちがボランティアで行ってくれています。

休み時間に、元気よく「お手伝いに来ました！」という声とともに来てくれて、手際よく数え、帯を付け、順番に並べる…ここまで、2～3名いれば、15分ほどでできるようになってくれました。

コロナの頃は、スクールサポートスタッフという方を県や市で雇っていただき、このような仕事もお願いできていましたが、金立小学校ぐらいの規模の学校については、現在はそのような方は予算化されていません。でも、このように、金立小の子どもたちの温かい心で、校長はとても助かっています。

よく来てくれる せのんさん、ひよりさん、ゆあさん、ゆきかさん、他にも ももかさん、あおいさん、みかさんなど、いろいろな子どもたちが入れ替わりで来てくれます。本当にありがたいことです。貴重な休み時間をありがとうございます。

ちなみに、学校便りの仕分けがないときには、校長室を掃除してくれています。校長室は子どもたちの掃除区域に含まれていないので、校長自ら ときどき掃除をしています。子どもたちのお手伝いのおかげで、いつもきれいにしています。本当にありがとうございます。

